

磐城時報

五日廿夕 日刊
編輯者 石城郡平野町田成
印刷者 石城郡平野町田成
發行所 石城郡平野町田成
電話 一四七
代印所 石城郡平野町田成
廣告料 一月十元 三月三十元 半年六十元 一年一百元
印刷部 印刷費 印刷部 印刷費

本年の麥作

例年より成績不良 雨量が少なかつたため

神谷村農事試験場分場の昭和三年度冬作定期調査立春日に於ける作況をみると十一月月上旬播種當時から雨量が例年に比し僅だ少かつたため発芽後れ且つ不整一にして生育甚だ不良、其後引續き雨量殆んどなく乾燥甚だ前五年間の平均發育に比し倍しき爲め左記の如く例年に比し發育不良である。

草丈 分蘗
早生三種平均 七一本
○、三五三三 七一本
○、三五三七 七一本
○、三五七尺 一一一本
○、三〇五尺 一一一本

飯野、内郷兩村議員 負擔不當を叫ぶ

水害豫防組合會 豫算可決は困難か

平野、飯野、内郷聯合水害豫防一週三十圓しか要しないといふ組合會は二十五日午前十時からの多額を占める兩村議員は負擔に協同したが、豫算は三萬一千七百九十五圓で歳出は經常部三萬二千二百一十一圓、臨時部二萬八千六百七十四圓である、同年度の事業費は二萬一千五百八十圓であるが、その中の重なるものは平野町見橋上流二百圓の工事で工費一萬七千二百七圓のうち八千六百三圓は縣補助を仰ぎ二千五百圓は起債の豫定であるが平野の工事は一週八十圓を要するの反し飯野、内郷兩村内は花時松ヶ岡公園の買地敷地を

松ヶ岡公園 賣店を貸す

平野町役場では例年の如く四月の掌詰所前から保線區の前まで一線を増加し貨車の輻輳を緩和し

自動車を轢く

湯本町湯葉安久所有乗合自動車 運轉手齋藤七郎(三三)が二十三日午後二時頃運轉して内郷村大字經字原田内を疾走中後方から内郷村大字小島佐藤三平所の乗合自動車が進みつき齋藤の自動車を追ひ越さんとしてたの之を避けんとした齋藤は逆轉を誤り通行中の内郷村滋澤飯場人夫増子義五郎(四八)を轢き倒し重傷を負はせたので平野署で取調中である。

四方がふさがつてゐるため 平野の擴張は困難

一線を増加して緩和し 機關庫裏を大擴張する

最近の平野は貨物の集積多量で常平小鐵道開通までに機關庫裏手に貨車が輻輳し一列車の貨車全部をいれ得ない程に構内が狹隘様である。となつて居り殊に平小鐵道が開通することになれば常磐炭礦から移出する炭車にて全く動きが取れないことなるので鐵道當局では目下同構内の擴張につきそそぐ考究中であるが現在の平野は前に城山を控へ驛前は住宅に南はトンネル北は夏井川にてさいざり居るため何れに擴張しても非常な多額の工費を要することになるので鐵道省當局でも頗る頭を悩めて居るが驛構内擴張は目下の急務となつて居るため、取敢ず現在の車掌詰所前から保線區の前まで一線を増加し貨車の輻輳を緩和し

を運轉手齋藤七郎(三三)が二十三日午後二時頃運轉して内郷村大字經字原田内を疾走中後方から内郷村大字小島佐藤三平所の乗合自動車が進みつき齋藤の自動車を追ひ越さんとしてたの之を避けんとした齋藤は逆轉を誤り通行中の内郷村滋澤飯場人夫増子義五郎(四八)を轢き倒し重傷を負はせたので平野署で取調中である。

鐵道線路に石塊 郡山行客車脱線

川前、夏井驛間の椿事

二十五日午前四時半平野發郡山後二時から舉行したが、卒業生が客車が平野を發し川前、夏井の驛間に差しかつた際鐵道線路に石塊があつたため機關車が脱線した。ゆゑ復舊に約三十分を要したが乗組員は無事であつた。石塊は山崩れのため線路にあつたものと判明した。

植田署管内 消防幹部會

植田警察署管内二町八ヶ村消防幹部大會は二十四日午前十時から植田町御田座に開き山保安課長出席し各種事項を協議した

平産看校 廿九回卒業生

平野町二丁目平産科婦看護婦學校第二十九回卒業式は二十五日午

金利低下の社會的意義

(一) 社會生活が經濟生活を意味するやうになつてきた今日經濟制度の問題は少くともわれわれの生活の中心として見られるやうになつてきた所謂「金融資本」の時代だといはれる。今日の經濟制度において社會現象を中心としこれに因を發するあらゆる社會問題はみな何れも經濟的關係を有しないものはない。殊に金融制度の問題は社會的の關係が密接なればなるほど社會的意義

(二) 金融制度改善の方策としては政府當局から種々の條項が指示されてゐるが、まづその中「金融制度の改善に依る金利低下の方策如何」といふ問題を研究の對象としてみることにする。

最近においては去る三月十一日から石城郡銀行組合の決議によつて預金利率の引下げが斷行され縣下各地方に先んじて實施されるに到つた。當局の言によれば今回の預金利率引下げは將來における貸付金利の引下げの前提をなすものであるといはれてゐる。そうならねばならぬ筈である。元來金利は安ければ安程社會經濟のため望ましいことである。(つづく)

坑夫死亡

内郷村大字宮平太郎製炭坑坑夫櫻炭夫木藤生れ小嶋佐内(三八)は二十四日午後六時十五分町田製炭坑内で作業中捲上機のベルトに捲き込まれて重傷を負ひ死亡した。

